

関西大学第一高等学校・第一中学校  
2022年度学校評価報告書



2023年3月

# 目 次

1	本校の概要 .....	1
2	今年度の重点目標における取組計画・内容、自己評価及び今後の改善方策 ....	2
3	アンケートの実施状況について .....	7
4	アンケート結果の分析 .....	7
5	学校関係者評価委員会からの評価結果 .....	16
6	校長の意見書 .....	18
7	アンケート結果 .....	19

## 1 本校の概要

### (1) 沿革

- 大正元年8月 文部省告示を以て社団法人関西大学付属「私立関西甲種商業学校」設立認可  
大正2年4月 本科3年制として開校  
大正13年4月 「関西大学第二商業高校」設置認可、開校  
昭和4年9月 天六新学舎が竣成し、従前の福島学舎から移転  
昭和19年3月 第二商業高校、戦時学制改革により廃校  
昭和22年4月 学制改革により関西甲種商業学校在学の1・2・3年をもって「関西大学第一中学校」を開校  
昭和23年4月 学制改革により「関西大学付属第一高等学校」を開校  
昭和24年3月 関西甲種商業学校第34回(有終)卒業式挙行  
昭和25年12月 旧千里山遊園地を買収、以後関西大学外苑と呼称  
昭和27年9月 校名を「関西大学第一高等学校」と呼称  
昭和28年11月 関西大学外苑高台に関西大学第一高等学校新校舎落成、天六学舎より移転  
昭和30年3月 関西大学第一高等学校 第7回卒業式をもって、夜間課程を廃止  
昭和32年11月 関西大学第一高等学校 校舎増築、中学校新校舎工事の落成式を挙行  
昭和36年11月 関西大学第一高等学校 創立50周年記念式典挙行  
昭和52年11月 関西大学第一高等学校 創立30周年(新制)記念式典挙行  
昭和56年3月 関西大学第一高等学校 新校舎落成  
平成7年4月 関西大学第一中学校 共学化  
平成10年3月 関西大学第一中学校 新校舎落成  
平成10年4月 関西大学第一高等学校 共学化  
平成11年2月 関西大学第一中学校・第一高等学校 体育館兼講堂 秀麗館落成  
平成16年1月 関西大学親和館落成  
平成25年8月 関西大学第一高等学校・第一中学校 温水プール落成  
平成25年11月 関西大学第一高等学校 創立100周年記念式典挙行  
一高一中校舎リニューアル 正門整備 ICT教育設備完成  
平成27年2月 一高グラウンド人工芝改修  
平成27年9月 一中職員室改装  
平成28年3月 一中1号館会議室改装

### (2) 建学の精神、教育理念・教育方針・教育目標等

第一中学校・第一高等学校は「関西大学の併設校として、関西大学の建学の精神を受け継ぎ、真理に立脚した正義と近代市民の生活に根ざした自由かつ進取な気風を標榜して、心豊かな、有為な人材を育てることを根本に据える」という教育理念のもと、次のような教育方針並

びに教育目標を掲げ、さらなる向上と充実に向けて、学校教育計画を策定している。

教育方針「正義を重んじ誠実をつらぬく教育」

- ① 青少年が内に蔵する無限の可能性を尊重し、これを啓発する。
- ② 生徒自身の真の幸福を追求する。
- ③ 進取の気性を養い、規律を重んじ、協同の自治と精神を育成する。

教育目標「知育・徳育・体育の高度に調和した人間教育」

- ① 将来につながる基礎的知識を確実に身につける。
- ② 集団の中における自己の責任を自覚し、豊かな人間性を育てる。
- ③ 自己の健康に留意し、体力の向上をはかる。

## 2 今年度の重点目標における取組計画・内容、自己評価及び今後の改善方策

(1) 重点目標①：基礎学力ならびに幅広い教養を身につける。

達成状況の目安：(◎)大幅達成・(○)達成・(△)未達成・(×)大幅未達成

取組計画及び評価指標(Plan)	自己評価
<p>ア 成績不振生徒に対してフォローを行い、基礎学力の向上を目指す。</p> <p>イ 【評価指標】</p> <p>&lt;高校&gt;</p> <p>・高校1・2年は年間4回の補習と成績下位者対象の補習、高校3年は独自テストや大学入学共通テストの補習を適宜実施する。</p> <p>&lt;中学&gt;</p> <p>定期考査の結果を踏まえ、5教科を中心に4時間の補習を2, 3学期期末考査前に実施する。</p>	<p>【取組状況(Do)】</p> <p>(高校) 高校1、2年は1学期1回、2学期2回、3学期1回ずつ、成績不振者に補習を行った。高校3年は併設校共通テストや英語検定に対する補習を行った。</p> <p>(中学) 定期考査の結果を踏まえ、5教科を中心に4時間の補習を2, 3学期期末考査前に実施した。</p> <hr/> <p>【達成状況(Check)】 (高校◎、中学◎)</p> <p>(高校) 決められた補習以外にも適宜補習を行った。</p> <p>(中学) 実技教科も含め補習授業を行うことができた。</p> <hr/> <p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>(高校) 引き続き、適宜補習を実施する。</p> <p>(中学) 引き続き、生徒の学習状況に合わせた補習を実施する。</p>
<p>ウ タブレット端末を活用し、多様な生徒1人ひとりに個別最適化された、資質・能力が一層育成できる教育を実施する。(図書)</p>	<p>自己評価</p> <hr/> <p>【取組状況(Do)】</p> <p>タブレット端末の利用状況実態アンケートを11月に実施した。</p> <hr/> <p>【達成状況(Check)】 (◎)</p> <p>アンケートでは、90%の生徒がタブレット端末によって学習効果が上がったと回答している。</p>

<p><b>【評価指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレット端末の利用により授業がわかりやすくなったとアンケートで回答した生徒が75%以上いる。</li> </ul>	<p><b>【今後の改善方策(Action)】</b></p> <p>今後も日常的に授業でタブレット端末を活用しやすくなるよう、機器の整備、研修の実施などを行っていく。また、秀麗館や親和館、中高職員室など無線ネットワークの範囲外となっている教育現場の無線ネットワーク化を行う。</p>
<p>ウ 新図書室が生徒の学習環境を最適化する場所になるよう、整備計画の策定を進める。<b>(図書)</b></p> <p><b>【評価指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現行の図書室の蔵書を見直し、新図書館へ移行できる蔵書を確認する。</li> <li>・ラーニングcommonsを含めた新図書館案を確定させる。</li> </ul>	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p><b>【取組状況(Do)】</b></p> <p>書庫に保管されている蔵書を整理し、新図書館に移行できるよう準備を進めた。また、現在建設中の新棟1の建設計画の中で、図書エリア・特別教室・コモンズエリアの図面策定や什器の配備計画について検討を行った。</p> <p><b>【達成状況(Check)】 (◎)</b></p> <p>書庫に保管されている蔵書の一部を除籍した。なお、新図書館で使用する什器の配備計画については、まだまとまっていないため、今後も継続して検討を行う必要がある。</p> <p><b>【今後の改善方策(Action)】</b></p> <p>具体的な教育計画をもとに、引き続き新図書館での使用する什器の配備計画を検討していく。</p>
<p>エ 各種検定の受検者数を増やす。<b>(進路)</b></p> <p><b>【評価指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学期に各種検定の告知をする。</li> </ul>	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p><b>【取組状況(Do)】</b></p> <p>今年度は新型コロナ感染の影響により、受験を積極的に推奨することはできなかった。英検については受験期間を設定し受験させた。</p> <p><b>【達成状況(Check)】 (○)</b></p> <p>英検については受験期間を設定することでほぼ全員が受験したが、他の検定については、受験者数を増やすことができなかった。</p> <p><b>【今後の改善方策(Action)】</b></p> <p>新型コロナ感染拡大が収束の方向に向かえば、できるだけ積極的に受験を推奨していきたい。</p>

(2) 重点目標②：豊かな人間性を育成する

<p>取組計画及び評価指標(Plan)</p>	<p style="text-align: center;">自己評価</p>
<p>ア マナー、モラル向上のための指導を行い、規範意識を高める。<b>(生指)</b></p> <p><b>【評価指標】</b></p>	<p><b>【取組状況(Do)】</b></p> <p>(高校) 各学期の始業式・終業式後に全校集会を行い、生活指導主任がマナー・モラル向上について話をした。また、各学年では、学年の生活指導部教員を中心に規範意識の向上を促した。</p>

<p>&lt;高校&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・規範意識を高める集会を年間3回実施する。風紀委員会を学期に1回以上開き、風紀向上の啓発を行う。</li> </ul> <p>&lt;中学&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・規範意識を高める集会を年間3回実施する。</li> </ul>	<p>(中学) 始業式や終業式、学年集会等を通じて各学年少なくとも1回は社会のルールやモラル向上についての指導をした。</p> <p>また、各学期に1回生徒会や風紀委員会等の各委員会が委員会新聞の作成や挨拶運動等を行い、生徒主導でのマナー・モラル向上にも取り組んだ。</p> <p><b>【達成状況(Check)】</b> (高校◎、中学◎)</p> <p>(高校) 各学期の始業式・終業式後の全校集会で講話を行い、外部からのクレームが減少した。生徒会や風紀委員会も積極的に活動した。</p> <p>(中学) 今年度は、ここ数年減少していた電車内のマナーに関するクレームが若干数増えた。</p> <p><b>【今後の改善方策(Action)】</b></p> <p>(高校) 次年度はさらに、生徒会や風紀委員会との連携を強化し、生徒同士が啓発しあえるような仕組み作りを図りたい。</p> <p>(中学) 次年度も生徒たちと連携をとりながら彼らがより成長できるような環境づくりを図りたい。</p>
<p>イ 生徒が安心、安全な学校生活を送れるように支援体制を整える。(心から・図書)</p> <p><b>【評価指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒対象に防犯教室や熱中症対策講習会などの研修会を中高それぞれ2回ずつ実施する。教員対象に救急救命や学校でよく起きる事故についての研修会を2回以上実施する。</li> </ul>	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p><b>【取組状況(Do)】</b></p> <p>新入生のオリエンテーションや、保健だよりを通じて熱中症対策を啓発した。中1対象の防犯教室、中1高1対象のスマホ安全教室、</p> <p>中2対象の救命講習、教員対象の救命講習(2回)を実施した。</p> <p><b>【達成状況(Check)】</b> (◎)</p> <p>コロナウイルス感染対策を実施しつつ、研修会等を実施できた。また保健だよりを配信し啓発に努めた。</p> <p><b>【今後の改善方策(Action)】</b></p> <p>実施した研修会や配信した保健だより等が生徒や教員に定着しているかを事後アンケート等で評価し改善していく。</p>
<p>ウ 人権意識を育む。(人権)</p> <p><b>【評価指標】</b></p> <p>&lt;高校&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人権ホームルームを各学年、学期に1回以上実施する。</li> <li>・「いじめに関するアンケート」を実施する。</li> </ul> <p>&lt;中学&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめに関するアンケートを</li> </ul>	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p><b>【取組状況(Do)】</b></p> <p>(高校)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人権ホームルームを各学年、学期に1回以上実施した。</li> <li>・全学年で「いじめに関するアンケート」を実施した。</li> </ul> <p>(中学) 各学年で年2回の人権講演会を実施し、「いじめに関するアンケート」を年2回行った。また、全学年に人権作品を募集し、自発的な参加を促した。教員対象研修会を対面形式で行い、Formsのアンケートで意見を集約した。</p>

<p>年2回実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人権HRを年6回以上実施する。</li> </ul>	<p>【達成状況(Check)】 (高校○、中学○)</p> <p>(高校)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全学年で人権ホームルーム(動画視聴による人権講演会含む)を学期に1回以上実施した。 ※1学年は2月に実施予定。</li> <li>全学年で「いじめに関するアンケート」を2学期に実施した。</li> </ul> <p>(中学) オンラインも活用し、全学年で年2回の人権講演会を実施した。人権作品に関しては中学生の主張や吹田人権作品作文部門などで入賞者が増加した。「いじめに関するアンケート」を年2回実施した。教員対象研修会を対面形式で行った。</p> <p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>(中学) 道徳の授業との連携を深め、人権講演会などを通じてより高い人権意識の育成を目指す。</p> <p>(高校) 時代の変化に応じたテーマや手法を通じて、生徒の人権意識を育み高めるための人権ホームルームを創意・工夫して行う。</p>
<p>エ 関西大学が実施する各種セミナーへの主体的な参加を奨励する。(進路)</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年間に3回以上各種セミナーの告知をする。</li> </ul>	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p>【取組状況(Do)】</p> <p>従来の学級掲示等による案内以外にTeamsを使って案内し積極的に参加するよう指導した。</p> <p>【達成状況(Check)】 (◎)</p> <p>ほぼ全てのセミナーに参加できた。</p> <p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>将来の進路(学び)と結びつく指導を行い、参加者の実数を増やしたい。</p>

(3) 重点目標③：より良い授業を追求する

<p>取組計画及び評価指標(Plan)</p> <p>ア 特別な教科道徳の授業力の向上を図る。(教頭)</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>道徳教育に関する授業力向上研修会に3回参加する。</li> </ul>	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p>【取組状況(Do)】</p> <p>教室での道徳授業以外にも、校外で教材になりうるものを検討する。</p> <p>【達成状況(Check)】 (△)</p> <p>中学2、3年に関しては、校外での充実した道徳教育を実現することができた。</p> <p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>中学1年に対しては、教材や時期的なもので適するものが見つからず、今後も検討していく。そして全学年、中身の拡充および充実を図る。</p>
--	---

<p>イ 教科ごとや教科を横断した研修会を実施する。(教頭)</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間2回以上の研修会を開催する。</li> </ul>	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p>【取組状況(Do)】</p> <p>新型コロナウイルス等の状況により動画配信形式・対面形式・見学形式の方法で実施した。(対面形式での研修会を人権関係で1回、動画配信形式での研修会を人権関係で1回・図書情報関係で1回、また見学形式の研修会を図書情報関係で2日)</p> <p>【達成状況(Check)】 (○)</p> <p>全て含めると2回以上は実施出来た。今後も対面形式・動画配信形式・見学形式・リモート形式等を組み合わせて実施していきたい。</p> <p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>新型コロナウイルス等の状況等を鑑み、可能であれば新型コロナウイルス感染症流行前の状況を基本とし教員のスキルアップの研修会を実施し参加人数を増やしていきたい。</p>
<p>ウ 防災教育のさらなる充実を目指す。(心から)</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練を中学校、高校それぞれ2回ずつ行い、緊急時の行動を教員と生徒が理解できるようにする。本校防災マニュアルの見直しを図る。</li> </ul>	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p>【取組状況(Do)】</p> <p>5月と9月に避難訓練を企画した。</p> <p>【達成状況(Check)】 (○)</p> <p>5月は避難訓練を実施したが、9月の大阪880万人訓練は高3の独自テストと実施日が重なったため、防災に関する知識や防災意識を高めることを目的とした「防災ほけんだより」を配信した。</p> <p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>地震を想定した避難訓練を実施しているが不審者対策の訓練等も企画していきたい。</p>

(4) 重点目標④：学校と家庭の連携を強固にする

<p>取組計画及び評価指標(Plan)</p> <p>ア 学校と家庭との連絡を密にする。(教務)</p> <p>【評価指標】</p> <p>&lt;高校&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・成績懇談会を年間2回と個人懇談を適宜設ける。</li> </ul> <p>&lt;中学&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者との懇談会を年間2回</li> </ul>	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p>【取組状況(Do)】</p> <p>(高校) 年間2回の成績懇談会を行った。7, 8月の三者面談で生徒と保護者との情報交換を行った。</p> <p>(中学) 各学年、年間2回の学習懇談会を実施した。</p> <p>【達成状況(Check)】 (高校◎、中学◎)</p> <p>(高校) 決められたものは行った。成績不振者には適宜家庭と連絡をとっていた。</p> <p>(中学) 1学期に3者懇談も行うことができた。また、適宜家庭と連絡をとり、生徒の情報を共有することができた。</p>
---	---



実施する	<p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>(高校) 配慮が必要な生徒の家庭とはこれまで同様、密に連絡をとっていく。</p> <p>(中学) 生徒・保護者が相談しやすい環境作りを行い、連携をとっていく。</p>
<p>イ ウェブページの充実を図る。</p> <p>(図書・入広)</p> <p>【評価指標】</p> <p>・生徒、保護者対象アンケートで、ウェブページを活用しているという回答が75%以上。</p>	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p>【取組状況(Do)】</p> <p>本校生徒・保護者向け中高ポータルサイトの運用を開始した。</p> <p>【達成状況(Check)】 (◎)</p> <p>アンケートでは85%以上の保護者がポータルサイトを有効に活用していると回答した。</p> <p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>今後も中高ポータルサイトが十分に活用されていくように利用を推進していく。</p>

### 3 アンケートの実施状況について

本校の「学校評価(自己評価)」は、「教員への自己点検・評価アンケート」と共に、「生徒アンケート」・「保護者アンケート」は、中学生・高校生の全生徒・全保護者に行った。内容やスケジュールについては、概ね昨年度を踏襲することとしたが、実施方法は少し変更し、すべてWeb上でアンケートに答えてもらった。本校独自の評価項目については、昨年度の同評価及び改善方法等を検討し、本年度の教育活動を点検した上で、10月26日の本校「自己点検・学校評価委員会」において決定した。12月2日にアンケート本文を配信し、12月10日を回収締切日とした。「教員へのアンケート」の有効回答は70件(回収率81.4%)であった。「生徒アンケート」は、高校生の有効回答は1,031件(88.3%)、中学生は649件(94.5%)であった。「保護者アンケート」の有効回答は、高校保護者853件(回収率73.0%)、中学校保護者582件(回収率84.7%)であった。昨年度まで、アンケート未提出者には教員より催促を行って提出を促していたが、今年度はWeb上の無記名であるため、回収率が少し低迷している。

### 4 アンケート結果の分析

実施対象別のアンケート結果をもとに以下のように分析した。

A:あてはまる、B:ややあてはまる、C:あまりあてはまらない、D:あてはまらない

#### (1) 学校全般

今年度の在学学生も、A・B合計結果(高校生・中学生ともに94%)から、楽しく充実した学校生活を送っていることが分かった。また、「この学校に入学させて良かった」と感じている保護者のA・B合計結果(高校93%・中学95%)から、保護者の満足度も高いことが分かった。その理由として、学業にも、部活動をはじめとする課外活動にも打ち込めるという関西大学の併設校ならではの環境が高く評価されていると考えられる。教員は、生徒・保護者の高い満足度を今後も維持するために、より魅力ある学校づくりに向けた努力を継続することが必要である。ただ、「入学

前に描いたイメージ通りの学校でしたか」という質問に対する肯定的なA・B合計結果が、保護者では高校で83%(昨年度82%)、中学で85%(昨年度83%)であったのに対し、高校生で67%(昨年度72%)、中学生で74%(昨年度80%)と低くなった。その理由として、一高進学・大学進学を見据えた日々の学業と部活動との両立の難しさを感じる生徒が増えたと考えられる。土曜日の半日授業や日曜日の部活動など、学校に滞在する時間が増えたことから、公立小・中学校時代に比べて家庭学習や家族との団欒に費やす時間が不十分だと感じているように思われる。また、ウィズ・コロナ時代に入り、学校行事や部活動の対外試合などがコロナ禍以前に戻り始めたことも影響していると考えられる。日々の忙しさに追われているように感じている生徒に対して、教員は、改めて毎授業の大切さを伝え、生徒自身による時間管理の習慣づけを促すことや、生徒が困りごとを相談しやすい関係性や環境をつくることに今後も努めていく必要がある。

## (2) 学校運営

### ① 私学の独自性

#### 「教育方針・教育目標」について

保護者のA・B合計結果は、高校で92%、中学で94%となり、本校の教育方針・教育目標への保護者の理解度が高いことが分かった。しかし、生徒のA・B合計結果は、中学で84%であったが、高校は73%にとどまった。中学では、コロナ禍以前と同様に、各学期の始業式・終業式に加えて学年集会や全校集会の際に、教育方針や教育目標に関わる講話を実施できたが、高校では、新型コロナウイルス感染防止のため学年集会や全体集会を開く機会がほぼ無く、本校教育の根幹を成す講話ができなかった。新型コロナウイルスの感染拡大の波は、今後も繰り返して来ると予想されるため、教員は、生徒自らがこの教育方針や教育目標を理解し、自身の成長や将来への目標と照らし合わせながら学校生活を送ることができるような指導や工夫を凝らし、支援していく必要があると考える。

### ② 危機管理

#### 「避難訓練や安全対策」について

保護者のA・B合計結果(高校81%、中学85%)と中学生のA・B合計結果(88%)は、ともに高い数値であった。今年度は、コロナ禍以降中止されていた避難訓練(中学では5月、高校では9月に開催)や、1年生対象の防犯教室(今年度は中1生のみ開催)を実施できたことが結果に表れた。加えて、生徒の携帯電話・スマートフォンの携帯許可や保護者への一斉同報メールの活用によって、保護者が生徒の安全情報を確認しやすくなったと考えられる。一方で、高校生のA・B合計結果は76%(昨年度82%)にとどまった理由として、中学校のように学年集会・全校集会で注意喚起ができなかったことから、初めて電車通学をする生徒が多い一中出身ではない高1生への注意喚起が不十分であったことが考えられる。今年度は、自然災害は少なかったが、交通機関の遅延が頻繁に発生して登校・帰宅困難な場面に遭遇した生徒が多く、どのように行動すればよいのか判断に迷ったと思われる。今後の対策として、『学園生活のしおり School Life』や「Microsoft Teams」のさらなる活用に加えて、昨年度から導入された図書・情報部作成の「生徒安否情報確認システム」も併用しながら、教員が生徒の安全確保に努めていく必要がある。

### 「新型コロナ対策」について

保護者のA・B合計結果は、高校で88%、中学で90%、生徒のA・B合計結果は、高校生で83%、中学生で86%と、いずれも8割を超える結果となった。最大の要因は、生徒に新型コロナウイルス感染防止の習慣(マスク・手洗い・うがい・消毒・教室の換気など)が付いてきたことである。生徒のワクチン接種も進みつつあり、「新しい生活様式」に生徒が年々順応してきたと思われる。新型コロナウイルスは、次々に変異株が出現しているため、学校現場ではこの結果に甘んじることなく、引き続き生徒の生命・健康を第一に考えたさらなる対策を講じていくことが必要である。また、新型コロナウイルスに罹患した場合や濃厚接触者になった場合の療養期間や必要な手続きの情報を、保護者・生徒と教員が共有し、「Microsoft Teams」によるオンライン学習支援や課題配信などを活用して生徒の学習支援に努めることが大切である。

## (3) 教育内容・生徒支援

### ① 知育(中学)

#### 「学力の向上のための組織的な取組」について

「授業を通じ、自分の学力は向上している」と感じている生徒のA・B合計結果は84%で、昨年度より微減となった。一方で、「iPadなどの電子機器は授業の内容を理解するのに役立っているか」という設問に対するA・B合計結果は91%だったことから、iPadを活用した授業が浸透し、様々な教材を利用した授業が行えるようになったことが要因と考えられる。電子機器を用いた授業と、そうでない授業のそれぞれの利点を理解した上で、今後も生徒の積極的な授業参加が促されるように指導していきたい。「学力向上のための組織的な取組を行っている」という設問に対し、70%の教員が肯定的な回答であった。今後、どのような対策が生徒に対して有効となるかを考えていく必要がある。

#### 「電子機器の利用」について

保護者・生徒のA・B合計結果がともに89%~91%と高い数値となった。その理由として、中学全学年に導入された「MetaMoji Classroom」アプリの活用により、今まで以上にきめ細やかな指導がなされ、学習効果が向上したと感じていると推察される。また、従来通り使用していた学習アプリの積極的な活用も要因の一つと考えられる。引き続き、教員の電子機器の活用に対するスキルアップを図るため、図書・情報部主催の研修会などを継続して実施していく必要がある。

#### 「スローラーナーへの対応」について

「成績が低迷した場合、補習授業で適切なフォローをしてもらえる仕組みがある」という設問に対する生徒のA・B合計結果は、85%であった。また、「習熟度の遅れた生徒へのフォローや補習授業の取り組みが十分に行われている」という設問に対する保護者のA・B合計結果は、75%であった。このことから、一定数の生徒・保護者は、補習授業や放課後教員に質問できる時間について満足していることがうかがえる。スローラーナーを減らしていくために、改めて本校での学習サイクル(授業→宿題→定期考査)について理解を深めるとともに、提出物を期限までに出すことの重要性を伝えていく必要があると思われる。

## 「保護者との連携」について

「学力向上のための組織的な取り組みが行われている」という設問に対し、保護者のA・B合計結果は、76%であった。本年度より、オンラインを利用した学習支援が限定的だが行われるようになった。今後、オンラインによる学習支援を受けられる対象を拡大することを検討していきたい。また、75%以上の生徒・保護者が「質問や相談ができる雰囲気」であると回答している。この数値に満足せず、「いつでも質問・相談のできる」教員集団であることがのぞまれる。

## ① 知育（高校）

### 「学力の向上のための組織的な取組」について

「授業を通じ、自分の学力は向上している」と感じている生徒のA・B合計結果は75%（昨年度76%）であった。国公立大学や関西大学以外の私立大学受験を目指す生徒からは、コース別のカリキュラム設定についてより柔軟な取り組みを望む声が聞かれる。現1年生から新しい学習指導要領に沿った新カリキュラムが設定されたため、次年度以降の回答結果を注視していく必要がある。「学力向上のための組織的な取組を行っている」という設問に対する教員のA・B合計結果は、昨年度の48%から今年度70%になった。iPadを活用した授業の取り組みや、関西大学第一高等学校卒業見込者入試(独自テスト)対策に加え、他校受験志望生徒への受験対策など、生徒の要望に応えたいという教員側の熱い努力がうかがえる結果となった。

### 「電子機器の利用」について

保護者のA・B合計結果は89%（昨年度84%）、生徒のA・B合計結果は90%（昨年度79%）と大きく改善した。その理由として、昨年度よりもiPadが授業内外を問わず活用されていることや、新型コロナウイルス罹患者や濃厚接触者となった生徒に対するオンライン学習支援に活用できたこと、3年生が使用している「ロイロノート」に加えて、現1年生から新たに導入された「Metamoji Classroom」アプリの活用により、学習効果が向上したと感じていると推察される。授業時にiPadやアプリを使用するには、まず教員がこれらの操作方法を学ぶ必要があり、図書・情報部主催のアプリ使用研修会への参加や教員独自の創意・工夫によって得られたスキルが、この結果をもたらしたことを書き添えておく。

### 「スローラーナーへの対応」について

「成績が低迷した場合、補習授業で適切なフォローをしてもらえる仕組みがある」という設問に対するA・B合計結果は、保護者で75%、生徒で82%となった。また、「学力不足生徒へのフォローのために補習授業や個人指導を行っている」という設問に対する教員のA・B合計結果は、83%となった。生徒と教員が補習授業の学習効果を実感しているのに対し、保護者の実感としては8割にとどかなかつた。その理由として、成績低迷者への補習授業は、次回の定期考査の得点を上げることに有効であるが、保護者が学期成績として目にする得点は、定期考査(1・2学期の場合は中間・期末考査)の得点に平常点(授業時の小テストや提出物など)が加わって算出されるため、保護者が期待するほど得点が伸びていないことが要因と考えられ

る。定期考査は、普段の学習の習熟度を測るものであり、まずは欠点(考査平均点の7割以下)をとらないことが大切である。そのため教員は、今まで以上に毎授業の生徒の習熟度を測り、補う工夫を凝らした授業づくりに努め、予習・復習を毎日行う家庭学習を習慣づけることの大切さについて、生徒だけでなく保護者にも伝えて協力してもらう必要があると考える。

### 「保護者との連携」について

「学校からの連絡や懇談は緊密に行われているか」という設問に対する保護者のA・B合計結果は77%、「自分の学習状況を保護者も把握していると思うか」という設問に対する生徒のA・B合計結果は85%となった。また、「学習状況の説明や家庭学習の把握のため、保護者と懇談や連絡を緊密に行っているか」という設問に対する教員のA・B合計結果は94%となり、保護者と教員の受け止めに差があることが分かった。教員は、成績を中心に学校生活における情報を保護者に連絡しているが、家庭では思春期に入った生徒の口から得られる情報が少ないことが予想されることから、保護者は情報の正誤を含め、より多くの生徒情報を求めていることがうかがえる。今後も、保護者が教員に相談しやすい環境づくりを継続していく必要がある。

## ② 徳育

### 「社会規範の理解とモラルの醸成」について

高校・中学の保護者のA・B合計結果は87%~89%と昨年度とほぼ変わらず、高校生のA・B合計結果も80%(昨年度81%)と変化は見られなかったが、中学生のA・B合計結果が86%(昨年度80%)となり、6%上昇した。これは、昨年度は開催できなかった学年集会や全体集会の開催回数が増加し、折に触れ生徒への啓発に努められたことが要因と思われる。しかし、教員のA・B合計結果は89%で、昨年度より7%低下した。今年度は、新型コロナウイルスに対する行動制限が次々と緩和され、一般の方から電車内のマナーなどで苦情を受ける回数が増加した。教員は、日常生活のマナー指導に力を入れていると考えているものの、校外での生徒の意識の緩みなどから指導の結果につながらなかったと感じる教員が少なくなかったことが読み取れる。マナーやモラルの向上には、教員が呼びかけるだけでなく、保護者の協力も欠かせないため、生徒が自ら自身の振る舞いを客観視し、自制する力を養うことができるよう、学校と家庭で働きかけていく必要がある。生徒・保護者・教員とも個々の感じ方や捉え方が異なることを想像し、公共の場における相手を尊重したマナーやモラルの大切さを考える機会を繰り返し設ける必要がある。また、緊急時の対応のために持ち込みが許可された携帯電話・スマートフォンだが、校内や電車内で使用するなど、使用ルールを守らない生徒が時々見受けられた。教員は、生徒に対して、ルールを守ることが自身の安全を確保することにつながるということを生徒全員が共有し、自らマナー・モラルの向上に務められるように指導していくことが必要である。

### 「いじめへの対応」について

高校・中学の保護者のA・B合計結果が86%~89%、中学生のA・B合計結果が86%、高校生のA・B合計結果が80%、教員のA・Bの合計結果が96%と、昨年同様高く評価された。本

校では一貫して「いじめを許さない」姿勢を生徒に伝えており、「いじめに関するアンケート」の回答を人権教育部が中心となって分析し、「いじめられる方にも責任がある」「過激でなければ問題ない」などのいじめ容認に傾きがちな態度を見過ごさないという共通認識を持って全教員が指導を行っていることがうかがえる。また、中学校の保護者・生徒のA・B合計結果がともに86%という高い評価であった理由の一つには、教科「道徳」と連携して人権意識を高められた指導効果が表れたと考えられる。

### 「情報機器とのつきあい方」について

A・Bの合計結果が高校・中学の保護者で83%～85%、高校生で84%、中学生で90%であったのに対し、教員では77%と意見が分かれる結果となった。近年、SNSなどのインターネットによるトラブルが増加していることから、入学直後の中1生と高1生のオリエンテーション時に図書・情報主任から情報機器の使用法や写真掲載・投稿時の注意について、人権教育主任からSNS使用における人権侵害の危険性について話す機会を設けている。また、中2生と高2生を対象にした人権講演会では、情報モラルや情報リテラシーの向上に努めている。中学では、学年集会や全校集会などで繰り返し注意喚起と啓発を行ったことや、家庭での使用ルールをきちんと守ることができていることが、高い数値の要因と考えられる。高校では、新型コロナウイルスによる感染拡大防止のため、全校集会などによる注意喚起や啓発を行う機会を設けることができなかつたことや、家庭での使用時間が長くなる傾向にあることが、中学生に比べると低い数値となって表れたと考えられる。教員は、授業時にiPadを常用していても、情報機器にまつわるトラブル回避まで具体的に指導する時間的余裕がなかつたと考えられる。今後は、教員がさらに研修を重ね、情報機器の使用法だけでなく、生徒への指導・啓発方法を学んでいく必要があると考える。

## ③ 体育

### 「健康な身体づくり」について

保護者・生徒・教員すべてにおいてA・B合計結果が89%～97%と、昨年度に続き高い数値となった。コロナ禍でさまざまな制限がある中、生徒が心身ともに健やかに過ごせるよう留意・工夫された保健体育科の正課授業や運動部の指導が、保護者・生徒から高い評価を受けていると思われる。教員のA・B合計結果は97%となり、昨年度の91%よりも数値が高くなった。思春期の生徒の健康な身体づくりが、精神面・身体面だけでなく学業面にも良い影響を与えていると感じていることが読み取れる。

## ④ 学校生活

### 「学習や部活動の施設・設備」について

高校・中学の保護者・生徒のA・B合計結果が81%～89%と高い評価であったのに対し、教員のA・Bの合計結果は49%にとどまり、C・Dの合計結果(51%)が上回る唯一の設問であった。教室・面談室の不足やクラブの活動場所の不足、男子生徒用の更衣室の設置などは、長年に渡り法人に施設改善を求めてきた経緯がある。新校舎の完成に向けて大規模な工事が始まる

ため、次年度以降はさらに生徒に負担や我慢を強いることが懸念されることから、生徒の充実した学校生活に支障が出ないように、早急に対策を講じる必要がある。

#### 「生徒会・委員会活動の推進」について

学校行事に対する生徒会・各委員会活動について、A・B合計結果が高校生で93%、中学生で96%、教員で94%と高く評価された。本校の生徒会・委員会活動は、生徒自らが考動し、企画運営に取り組むという伝統がある。特に今年度は、新型コロナウイルス感染防止対策を十分に講じながら、ウィズ・コロナ時代に沿った行事や委員会活動を成功させることができた。これは、生徒にとって大きな達成感と成長をもたらしたことは間違いないと思われる。また、近年、保護者の生徒たちの活動への関心が高くなっており、それに伴い学校行事への保護者の来校も一部再開され、座学だけでは測れない生徒たちの成長を見ることができる良い機会になっていると思われる。

#### 「学校行事(宿泊行事・校外学習)」について

中学の保護者・生徒のA・B合計結果は95%~97%、教員のA・B合計結果は90%となったのに対し、高校でのA・B合計結果は、保護者で83%、生徒で70%と大きく評価が分かれる結果となった。中学では、予定されていた宿泊行事・校外学習は、海外英語研修も含めて全て実施できた。一方、高校では、現高3生が2年次に実施予定であったマレーシアへの海外修学旅行が新型コロナウイルス感染拡大のために実現されてなかったことや、現高1生に予定されていた宿泊行事が1日の校外学習に変更されたこと、関一祭PART Iが3年連続でオンライン形式での開催になったことなどが影響したと考えられる。しかし、今年度の体育祭は、種目を変更したり、待機場所が密集しないように工夫して開催できた。また、関一祭PART IIは、食品の模擬店を行わずにクラスイベントを充実させて有観客で開催できた。今年度の高校の全体行事は、ウィズ・コロナ時代における成功例として、次年度以降の下級生に受け継がれていくと思われる。

#### 「情操教育」について

中学の保護者・生徒、教員のA・B合計結果は、92%~96%と高評価であったが、高校の保護者では78%、生徒では85%にとどまった。一中出身生徒の保護者の中には、中学で開催される芸術鑑賞会への参加経験のある方が多く、高校の古典芸能鑑賞会には参加できないことを物足りなく感じておられると思われる。古典芸能鑑賞会が開催される劇場は、客席数が少ないため、保護者の参加を断らざるを得ない状況にある。古典芸能は、鑑賞できる劇場や機会が限られているが、生徒の教養を深め、高めるという教育目標を達成するためにも、次年度以降も継続して開催されるべきであると考えられる。

#### 「教員に対する相談」について

保護者のA・B合計結果は、高校で75%、中学で76%であったが、生徒のA・B合計結果は、高校で84%、中学で77%となった。一方で、教員のA・B合計結果は91%となり、昨年

同様、生徒・保護者と教員間での大きな隔たりが改善されなかった。教員は、いつでも生徒や保護者からの相談や質問を受け入れる準備があるというメッセージを、より分かりやすく発信する必要がある。また、補習や会議、部活動指導などで忙しい教員に、相談しにくい雰囲気を生徒が感じ取って遠慮することがないように、教員の業務の合理化や整理を行うことも必要である。

#### 「生徒との接し方」について

高校・中学の保護者のA・B合計結果は、86%～87%、生徒のA・B合計結果は、高校生で87%、中学生で84%であったが、教員のA・B合計結果は97%となり、評価が分かれた。教員は、生徒への接し方や指導方法を研修会などを通じて学び直すことや、教員間で連携・協力しながらチームで生徒に寄り添えるよう努めていくことが必要だと考える。

### ⑤ 学校間連携

#### 「中高大連携事業の実践」について

高校の保護者・生徒のA・B合計結果は、86%～88%と高評価であったが、中学の保護者・生徒のA・B合計結果は、74%～78%となり、高校と中学で約10%の差が出る結果となった。教員のA・B合計結果は、昨年度と同数値の67%であった。高大の連携は、学部説明会や高大連携セミナー、模擬授業など、大学進学を見据えた生徒参加型の様々なプログラムが準備されており、生徒も保護者も大学生活を疑似体験できることに満足していると思われる。中高・中大の連携は、現中1生・中3生に向けて、一高への進学を中心に大学進学も含めた進路説明会が開催されたが、特に大学進学についてはまだ先のこととして捉えられた可能性があり、高校の保護者・生徒ほどには数値が伸びなかった。また、中高・中大の教育連携についても、教員は高校での授業も想定しながら教科指導を行っているが、中学生にはその認識が希薄であったり、中大の連携セミナーやプログラムがそもそも準備されていないため、高校生とは差が出たと思われる。教員への設問は、高大、中大、中高の教育連携についてであったため、所属学年によって意見が分かれたと考えられる。

#### 「進路情報の提供」について

高校の保護者・生徒のA・B合計結果は、保護者が87%、生徒が92%となり、高い評価であった。中学の保護者・生徒のA・B合計結果は78%～79%となり、「中高大連携事業の実践」と同様の結果となった。現高2生で行われる関西大学の学部説明会は、昨年につき、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、希望する学部に参加して紹介説明を視聴するスタイルから、各自のiPadで各学部の紹介動画を視聴するスタイルで行われた。動画説明会では、生徒と保護者が一緒に繰り返し視聴することができるようになり、より幅広く学部の特色を知り、理解を深めることができた満足感が高評価につながったと思われる。教員のA・B合計結果は、昨年度と同数値の83%であった。現高3生から関西大学第一高等学校卒業見込者入試の英語の得点は、文系・理系とも実用英語技能検定(英検)のCSEスコアから算出する方式に変更されるなどの大きな内容変更があったが、進路指導部が全学年教員に変更点や注意点を丁寧に周知したことが有効であったと考えられる。今後も入試制度は内容変更が行われる可能性があること



から、全学年教員が変更点を十分に理解して生徒の進路相談に応じることができるようにする必要がある。また、学部選択のミスマッチ防止として「早い段階からの学部広報」や「学部説明会では実施できない授業内容のプログラム」の提案を活用することによって一高生の進路保障を進めるとともに、中学生やその保護者に対しても関西大学に一番近い併設校という地の利を活かして、大学の魅力や学部情報などを iPad などの情報機器も活用しながら、伝える機会を増やすことなどが考えられる。

## ⑥ カウンセリング

### 「カウンセリング体制」について

高校・中学校の保護者、高校生、教員の A・B 合計結果は、82%～87%、中学生の A・B 合計結果は 78% となり、昨年度とほぼ変わらなかった。近年、保護者・生徒の抱える問題は、表面化されにくい SNS トラブルから起こる人間関係や生徒個人の内面に关わる問題など、多種多様な悩みや相談が増加している反面、それらを教員やスクールカウンセラーに相談することは、特に中学生には心理的ハードルが高いと思われる。今まで以上にカウンセリング体制の周知を図り、相談しやすい環境づくりに務めることや、カウンセラーの増員、カウンセリングルームの利用時間の見直しなども含め、より充実させていく必要があると思われる。

## (4) 研修

### 「校内外における教員研修」について

「本校教員は、教材研究や指導力の向上に努めようとしているか」という設問に対する高校・中学の保護者の A・B 合計結果は 80%～81%、「工夫された授業やおもしろい実験などが取り入れられているか」という設問に対する中学生の A・B 合計結果は 88% (昨年度 81%) と高く評価されたが、高校生の A・B 合計結果では 68% (昨年度 71%) であった。高校生は、学年が上がるごとに学習内容が難しくなり、進級をかけて学習に取り組まなければならないことや、進学に向けた受験対策の問題演習などが増えてくることから、中学生時のような面白さを感じられなくなると思われる。「教員の資質向上、生徒の知的好奇心を喚起する授業構成のための校内外の研修体制が充実しているか」という設問に対する教員の A・B 合計結果は、64% (昨年度は 45%) となった。教員対象の校内研修会は、図書・情報部による MetaMoji Classroom 講習会、心と体の健康部によるエビペン講習会、人権教育部による人権教育研修会 (対面による研修会・Teams による動画配信) などを開催できたが、研修会によって参加率は低迷している。その原因は、教員の業務の膨大化による時間的余裕のなさである。研修会の開催日時が定期考査中などに限られるため、採点や出張などにより参加率は低迷している研修会が多い。校外研修では、生活指導部や人権教育部から校外研修会の案内を専任教員だけでなく非常勤の教員方にもお知らせはしているが、参加率は低い。教科指導や専門性を高める研修会に積極的に参加して研鑽を積んでいる教員もいるが、リモートやオンライン研修会であっても、残念ながら参加できている教員は少ないように感じられる。毎日の教科研究や授業準備、補習や部活動指導など、教員は日頃から長期休暇中まで多忙であることが、研修会への参加率を低下させていると推察される。教員としての資質を高め、新たな知識や技能を習得して生徒に還元するためにも、校内外の研修を受けやすくする環境整備や対策が必要である。

## (5) その他

### 「食堂」について

新型コロナウイルス感染防止のため、事前に食券を購入する新しい利用方法が生徒に定着してきたのか、生徒のA・B合計結果は、高校生が85%、中学生が72%となった。中学生が高校生よりも低い数値になっているのは、中学校舎から食堂までの距離も関係していると思われる。食堂側の感染防止対策と衛生管理に努めながら徐々に商品を増やすなどの工夫によって、生徒の高い満足度がうかがえる結果であったが、保護者のA・B合計結果は、高校が71%、中学が63%となり、生徒の回答結果を下回った。事前の食券購入の手間などを慮っての結果だと思われる。

### 「保護者ポータルサイト」について

今年度より図書・情報部によって導入されたシステムで、欠席連絡や学校からのお知らせの配信などを行うことができるようになった。保護者のA・B合計結果は87%~88%となり、高い満足度がうかがえる。教員では91%が有効活用できているという結果となり、忙しい朝の教員負担が軽減されたことが大きく影響していると思われる。今後も電話対応や紙面の配布と併用しながら活用していきたいと考える。

## 5 学校関係者評価委員会からの評価結果

第一中学校保護者代表としてPTA会長 坂本光平氏、第一高等学校保護者代表として教育後援会会長畑中祐介氏、多数の生徒たちの進学先である関西大学の教学を代表して関西大学人間健康学部教授安田忠典先生に今回のアンケート結果や自己評価に関するご意見を頂戴した。今後の本校教育にとって貴重なご意見、ご要望を頂戴することができた。以下、それらのご意見を記述する。

### 【関西大学第一中学校 PTA会長 坂本光平氏】

学校生活全般について、94%の生徒が学校生活を楽しいと感じているというアンケート結果は、この制限が多いコロナ禍において大変素晴らしいものと思います。また保護者アンケートの「この学校に入学させてよかったと思いますか」の問いに対しても、95%の保護者がA・Bの回答であり、生徒と保護者ともに学校への満足度が高いことが分かります。

次に、各アンケートより感じた3点につきまして、コメント申し上げます。学校生活の「教員に対する相談」について、「勉強や学校生活について、先生に質問や相談ができる雰囲気でしたか」という問いに、生徒と保護者の回答が77%に対し、教員の回答が91%と14ポイントの乖離があります。長くコロナ禍が続く中、また思春期を迎えている生徒たちとの接し方や距離感については難しいものがあると思いますが、この項目の数字向上こそが、学校教育の根幹であり生徒たちの更なる成長に繋がると 생각합니다。生徒たちが質問や相談がしやすい雰囲気づくりと生徒たちへの声掛けの工夫をお願いいたします。

学校間連携の「中高大連携事業の実践」について、「中大、中高の学校同士の教育連携があると思いますか」という問いに対し、生徒78%、保護者74%、教員67%という結果を少し残念

に感じています。この数字が高校でのアンケートでは80%後半にまで上がりますが、中学生の段階から高校生活や大学での専門授業などのイメージや自分の将来への意識付けなど、高校や大学と連携し改善をお願いいたします。

その他の「食堂」について、「食堂は利用しやすいですか」の問いに、生徒73%、保護者63%という満足度の低い結果について、中学校棟から食堂までの距離の問題が一番であると考えられますが、中学校棟にも簡易の売店やお弁当販売などを試験的にでも検討していただければと思います。

#### 【関西大学第一高等学校 教育後援会会長 畑中祐介氏】

各項目すべて、コロナによる制限の中、生徒達の満足度合いも一定以上であり、先生方が工夫してくださっていることがよく分かります。

今後よりよく改善していただきたい点としては、テスト後の補習はとてありがたいのですが、やはり、根本的に授業の理解度の差があるように思います。iPadは導入時より現在の方がかなり活用されている様ですが、全体平均の理解度を上げるための利用がもっと出来るのではないかと今後に期待します。

そして高大連携に関しては制限があるとは思いますが、高校から大学の授業参加やイベント参加など併設校として関わっていくことが出来れば、生徒達の学部に対しての理解や進路に関して役に立つのではないのでしょうか。

今後は新校舎も建設中という事で、また新たな一中一高の魅力をアピールしていただけたらと思います。

#### 【関西大学人間健康学部 教授 安田忠典 先生】

これまでのアンケートの分析結果等に基づいて、適正な目標設定とその達成に向けた取り組みがなされていることを確認しました。それぞれの課題について、多くは徐々に改善している傾向が認められ、成果が出てきていることもよくわかりました。学校の運営方針等に関しては、概ねこの調子で進めていただくのがよいと感じています。そこで、今年度は少し視点を変えて、同じく教員として働いている立場から気づいたことをいくつか述べておきたいと存じます。

一つ目は、コロナ禍の様々な制限による生徒の気質等の変化についてです。大学で接する学生たちの気質や嗜好は、コロナ禍以前と比べて明らかに変化しています。大学では、オンライン授業という非常に大きな変化があったため、アンケート項目にも大幅な修正を加え、オンラインへの適応度や問題点などを調査してきました。それらを通してわかってきたことは、コロナ禍以前に入学した学生と、コロナ禍以降に入学してきた学生の相違点です。それはIRのデータとしても明確に現れており、その変化を一言で表すと「経験不足」であります。これは、部活動や学校行事等の体験の機会が質量ともに低下し、座学中心の学園生活にならざるを得なかったことに起因していると思われませんが、ではその「経験不足」によって学生の何が変わったのでしょうか。もっとも深刻なのは、対面授業やアクティブラーニング、プロジェクト学習などに対する意欲の低さです。相手が求めている「答え」は何かを察知して要領よく課題を提出するようなことは上手ですが、身体性が高い課題等は忌避したがる傾向が強くなっています。

こうした傾向から、私たちは学生の「学ぶ」ことへの意欲自体が低下しているのではないかと危惧しています。中高生についても、学年間の比較や既卒学年のデータも含めた経年的な変化などを調べていただくと何か傾向が見えるかもしれません。あるいは、先生方の実感として生徒の気質の変化のようなものがあるかもしれません。来年度、本法人はコロナ禍対策レベルゼロを採択しました。蓄積されたエビデンスや教職員の実感を手がかりに、次のステージでこうした経験不足を補えるような新しい取り組みが必要になるのではないかと思います。

二つ目は、これもコロナ禍と関係があって、大学では情報機器の利用頻度が格段に上昇しました。在宅勤務が増えた社会全体でもそうです。ですから、この分野へさらに注力されると、進学後大いに役立つと思われます。先生方へのアンケートでもこの項目は以前から少し目につくところです。例えば大学では、論文やレポートの執筆には主にMSWordを用いますが、出身校によってはまったく未経験の学生がいて、補習が必要です。プレゼンの資料をPPT等で作成する際にも、まったくできない学生と、教員よりも速く作業ができる学生という風に、格差が生じています。高大連携を強化して、このあたりの実情を共有していけると生徒たちは大学でさらに活躍できるのではないのでしょうか。

三つ目は、昨年も述べましたが、学外の地域社会や他校種との連携の強化です。今次のアンケートにも「宿泊行事や校外学習など、校外での活動・学習は、生徒の興味・関心を生かし、自主的、自発的な学習を促すことに役立っている。」という項目が追加されていて、ますますの充実が期待されます。この領域の活動内容や成果をどんどんご報告いただき、さらに新しくかつユニークな取り組みを開発していくことが、コロナ禍という未曾有の大災害を乗り越えていくために、学校に課された使命ではないかと思います。

## 6 校長の意見書

関西大学第一高等学校・第一中学校  
校長 狩場治秀

本校では、学力をつけることのみにとらわれる教育ではなく、「正義を重んじ、誠実をつらぬく教育」を教育方針とし、知、徳、体のバランスのとれた生徒育成を目指し、生徒自らがやりたいことに積極的に取り組める環境を整え、勉強のみならず部活動や生徒会活動等を通じて人間力を養う教育をおこなうことを目指し日々努力している。質問項目にある「この学校に入学して(させて)良かった」と感じている在校生や保護者が、93～95%と肯定的な回答が多くみられた。しかし、これに驕ることなくサポートをしていきたい。

コロナ禍から3年がたったが、ようやく学校としてのコロナとの向き合い方が徐々に浸透しつつあるように思われる。このことについてもアンケート結果から伺うことができる。成績懇談や学校行事が例年どおりに行なえたことが、保護者と教員との意思疎通にもつながり、「学力向上のための組織的な取り組みを行っている」という設問に、肯定的な意見が昨年度の48%から今年度は70%になっているようだ。そして、「電子機器の利用」についても、iPadの導入の際には、教員や生徒に戸惑いも見られたが、授業での取り組み等で幅広く浸透してきたように思われる。保護者にもポータルサイトの導入での高い満足度が伺える。

そして、このアンケート結果で伺える懸念を解消する手立てを何点か考えていきたい。来年度11月末に中学新校舎が完成予定である。「中大連携」に関しては、新しくできるエリアを

活用して、関西大学に隣接していることを利点にすすめて行きたい。今まで空き教室がない状況で考えることができなかつた連携を考えていく。来年度には関西大学の各学部と協議して生徒によりよい環境づくりに努めていきたい。そして、「学力向上の組織的な取り組み」も生徒からコース別のカリキュラム設定について、柔軟な取り組みを望む意見が聞かれた。2026年度の高校新校舎完成に向けて、新しい施設の活用を考え、コースやカリキュラムを生徒に寄り添ったものにできるよう検討していきたい。「学習や部活動の施設・設備」について教員の肯定的な意見が半数を割っている。新校舎建設工事により生徒の学校生活に支障が出ているように思われる。学校行事等でも校外へ出て行くことも模索し、充実した学校生活に近づけるようにしなければならない。

結びに with コロナで行っていた教育活動も、世間では新しい局面を迎えようとしている。コロナ前に戻すような意見がよく聞かれているが、知育、徳育、体育のバランスのとれた生徒育成を目指すには、コロナ前に戻すのではなく、このコロナ禍で学んだ電子機器等を活用した一歩進んだ関西大学第一高等学校および第一中学校に育て上げ、生徒や保護者により一層満足してもらえるよう、教職員一同努力していく。

## 7 アンケート結果 資料

- 資料 1 2022 年度 学校評価集計結果表（教員） 資料
- 資料 2 2022 年度 学校評価集計結果表（保護者：高校） 資料
- 資料 3 2022 年度 学校評価集計結果表（保護者：中学校） 資料
- 資料 4 2022 年度 学校評価集計結果表（生徒：高校） 資料
- 資料 5 2022 年度 学校評価集計結果表（生徒：中学）

以上

## 2022年度 学校評価 集計結果表

## 関西大学第一高等学校・中学校

## 集計対象

## 教員

有効回答数

70

No	設問文	回答数				満足度グラフ
		4. あてはまる	3. ややあてはまる	2. あまりあてはまらない	1. あてはまらない	
1	本校の生徒は充実した学校生活を楽しんでいる。	28	40	2	0	
2	本校に入学した生徒・保護者の満足度は高い。	19	49	2	0	
3	学校説明会は、本校の学校生活を紹介するのに役立っている。	28	37	5	0	
4	建学の精神に基づき教育方針・教育目標は、教職員・保護者などの関係者によく浸透している。	10	47	12	1	
5	職員会議や学年会議、教科会議などが効率よく機能的に運営されている。	4	26	26	14	
6	警察や消防署と連携し、避難訓練や安全講習会を開くなどの安全対策を講じている。	22	38	10	0	
7	災害や事件・事故などにより帰宅困難になったとき、安全確認のための手段が講じられている。	21	40	9	0	
8	校内での新型コロナウイルス感染拡大防止策は、適切に行われている。	22	42	6	0	
9	学力向上のための組織的な取り組みを行っている。	9	40	19	2	
10	学力不足生徒へのフォローのために補習授業や個人指導を行っている。	13	45	11	1	
11	学習状況の説明や家庭学習の把握のため、保護者との懇話や連絡を緊密に行っている。	22	44	4	0	
12	生徒に学校や社会のルールを遵守させ、生徒としてのマナーやモラルを向上させる取り組みを行っている。	17	45	8	0	
13	いじめの実態把握に努め、生徒が発する危険信号等を見過さないようにして早期発見に努める体制が整い、学校組織として共有できている。	31	36	3	0	
14	情報機器の正しい使い方について、適切な指導をおこなっている。	11	43	15	1	
15	基本的な生活習慣や健康な身体づくり、基礎体力づくりの指導を行っている。	29	39	2	0	
16	学習や部活動の施設・設備は充実している。	5	29	26	10	
17	関一祭や体育大会などの学校行事において、生徒会や各委員会は積極的に活動している。	32	34	4	0	
18	宿泊行事や校外学習など、校外での活動・学習は、生徒の興味・関心を生かし、自主的、自発的な学習を促すことに役立っている。	26	37	7	0	
19	本校の芸術・美術鑑賞は、充実している。	32	33	5	0	
20	勉強や学校生活について、生徒からの質問や相談を受けやすい関係を作っている。	26	38	6	0	
21	生徒の人權に配慮した指導をおこなっている。	24	44	2	0	
22	高大あるいは中大、中高の学校同士の教育連携が積極的に行われている。	11	36	22	1	
23	進路に関する情報は、生徒に提供されている。	18	40	10	2	
24	生徒・保護者の悩みに対して、教員による相談体制やカウンセリング体制が学校全体として整っている。	21	40	9	0	
25	本校は、教員の資質向上、生徒の知的好奇心を喚起する授業構成のための校内外の研修体制が充実している。	6	39	23	2	
26	保護者ポータルサイトを有効に活用できていますか。	26	38	3	3	

## 2022年度 学校評価 集計結果表

## 関西大学第一高等学校

## 集計対象

## 保護者

有効回答数

853

No	設問文	回答数				満足度グラフ
		4. あてはまる	3. ややあてはまる	2. あまりあてはまらない	1. あてはまらない	
1	ご子女は、生き生きとした学校生活を送っていると思われませんか。	423	352	74	4	
2	保護者として、この学校に入學させてよかったですか。	491	305	55	2	
3	本校での学校生活は、入学前に描いたイメージ通りでしたか。	301	403	134	15	
4	本校の教育方針・教育目標を理解されていますか。	265	521	63	4	
5	避難訓練や安全対策など積極的な対策を講じていると思われませんか。	204	489	147	13	
6	災害や事件・事故などにより帰宅困難になったとき、安全確認のための手段が講じられていると思われませんか。	216	429	190	18	
7	校内での新型コロナウイルス感染拡大防止対策は、適切に行われていると思われませんか。	285	466	94	8	
8	本校は学力向上のために組織的な取り組みを行っていると思われませんか。	215	427	181	30	
9	iPadなどの電子機器は授業の内容を理解するのに役立っていると思われませんか。	341	417	81	14	
10	習熟度の遅れた生徒へのフォローや補習授業の取り組みが十分に行われていると思われませんか。	202	434	184	33	
11	学校からの連絡や懇談は緊密に行われていると思われませんか。	252	404	165	32	
12	学校や社会のルールを遵守させ、生徒としてのマナーやモラルを向上させる取り組みが行われていると思われませんか。	288	472	85	8	
13	いじめを許さない学校・学級作りに積極的に取り組んでいると思われませんか。	278	485	73	17	
14	情報機器の正しい使い方に関する指導が適切に行われていると思われませんか。	237	488	115	13	
15	基本的な生活習慣や健康的な身体づくり、基礎体力づくりの指導が行われていると思われませんか。	275	487	87	4	
16	学習や部活動の施設・設備は充実していると思われませんか。	306	393	131	23	
17	宿泊行事や校外学習など、校外での活動・学習は、ご子女の興味・関心を生かし、自主的、自発的な学習を促すことに役立っていると思われませんか。	274	430	126	23	
18	古典芸能鑑賞は、ご子女の情操教育に役立っていると思われませんか。	230	432	170	21	
19	勉強や学校生活について、ご子女から教員に質問や相談ができる関係が作られていると思われませんか。	225	418	189	21	
20	教員の指導方法は、人権に配慮したものになっていると思われませんか。	263	477	92	21	
21	高大の教育連携が積極的に行われていると思われませんか。	313	423	107	10	
22	ご子女の進路に関する情報は、提供されていると思われませんか。	317	428	99	9	
23	ご子女に何らかの問題が生じたとき、担任をはじめとする教員、学校カウンセラーに相談ができる体制ができていると思われませんか。	246	456	133	18	
24	本校の教員は、教材研究や指導力の向上に努めようとしていると思われませんか。	223	460	146	24	
25	食堂は、利用しやすいと思われませんか。	205	404	208	36	
26	欠席連絡やお知らせの配信など、保護者ポータルサイトを有効に活用できていると思われませんか。	339	411	92	11	

## 集計対象

## 保護者

有効回答数

582

No	設問文	回答数				満足度グラフ
		4. あてはまる	3. ややあてはまる	2. あまりあてはまらない	1. あてはまらない	
1	ご子女は、生き生きとした学校生活を送っていると思われませんか。	327	208	39	8	
2	保護者として、この学校に入學させてよかったですか。	346	207	28	1	
3	本校での学校生活は、入学前に描いたイメージ通りでしたか。	222	275	73	12	
4	本校の教育方針・教育目標を理解されていますか。	213	332	36	1	
5	避難訓練や安全対策など積極的な対策を講じていると思われませんか。	172	323	83	4	
6	災害や事件・事故などにより帰宅困難になったとき、安全確認のための手段が講じられていると思われませんか。	168	299	108	7	
7	校内での新型コロナウイルス感染拡大防止対策は、適切に行われていると思われませんか。	233	290	53	6	
8	本校は学力向上のために組織的な取り組みを行っていると思われませんか。	149	291	125	17	
9	iPadなどの電子機器は授業の内容を理解するのに役立っていると思われませんか。	200	317	50	15	
10	習熟度の遅れた生徒へのフォローや補習授業の取り組みが十分に行われていると思われませんか。	176	261	114	31	
11	学校からの連絡や懇談は緊密に行われていると思われませんか。	199	269	104	10	
12	学校や社会のルールを遵守させ、生徒としてのマナーやモラルを向上させる取り組みが行われていると思われませんか。	248	261	66	7	
13	いじめを許さない学校・学級作り積極的に取り組んでいると思われませんか。	206	295	70	11	
14	情報機器の正しい使い方に関する指導が適切に行われていると思われませんか。	162	321	92	7	
15	基本的な生活習慣や健康な身体づくり、基礎体力づくりの指導が行われていると思われませんか。	245	290	46	1	
16	学習や部活動の施設・設備は充実していると思われませんか。	262	233	76	11	
17	宿泊行事や校外学習など、校外での活動・学習は、ご子女の興味・関心を生かし、自主的、自発的な学習を促すことに役立っていると思われませんか。	313	240	23	6	
18	芸術鑑賞会や美術鑑賞会は、ご子女の情操教育に役立っていると思われませんか。	320	236	25	1	
19	勉強や学校生活について、ご子女から教員に質問や相談ができる関係が作られていると思われませんか。	140	305	124	13	
20	教員の指導方法は、人権に配慮したものになっていると思われませんか。	189	311	67	15	
21	中大、中高の学校同士の教育連携が積極的に行われていると思われませんか。	128	300	137	17	
22	ご子女の進路に関する情報は、提供されていると思われませんか。	141	311	116	14	
23	ご子女に何らかの問題が生じたとき、担任をはじめとする教員、学校カウンセラーに相談ができる体制ができていると思われませんか。	178	316	82	6	
24	本校の教員は、教材研究や指導力の向上に努めようとしていると思われませんか。	153	320	98	11	
25	食堂は、利用しやすいと思われませんか。	113	256	176	37	
26	欠席連絡やお知らせの配信など、保護者ポータルサイトを有効に活用できていると思われませんか。	264	241	71	6	



## 2022年度 学校評価 集計結果表

## 関西大学第一高等学校

## 集計対象

## 生徒

有効回答数

1,031

No	設問文	回答数				満足度グラフ
		4. あてはまる	3. ややあてはまる	2. あまりあてはまらない	1. あてはまらない	
1	学校生活は楽しいと感じていますか。	584	387	47	13	
2	この学校に入学してよかったですか。	480	451	77	23	
3	本校での学校生活は、入学前に描いたイメージ通りでしたか。	184	511	265	71	
4	本校の教育方針を理解していますか。	245	512	212	62	
5	事故、事件、災害が発生したとき、どのように行動すれば良いのか、指示を受けていますか。	276	505	200	50	
6	災害や事件・事故などにより帰宅困難になったとき、安全確認のための手段が講じられていますか。	283	491	204	53	
7	校内での新型コロナウイルス感染拡大防止策は、適切に行われていると思いますか。	378	474	152	27	
8	授業を通じ、自分の学力は向上していると感じていますか。	249	523	206	53	
9	iPadなどの電子機器は授業の内容を理解するのに役立っていると思いますか。	625	308	66	32	
10	成績が低迷した場合、補習授業で適切なフォローをしてもらえる仕組みがあると感じていますか。	364	479	142	46	
11	自分の学習状況を保護者も把握していると思いますか。	492	383	119	37	
12	生徒としてのマナーやモラル向上のための指導によって、規範意識が昨年より高まったと思いますか。	335	491	165	40	
13	いじめを許さない指導が日常的に行われていると思いますか。	389	431	173	38	
14	情報機器の正しい使い方に関する指導によって、規範意識が高まったと思いますか。	375	486	133	37	
15	基本的な生活習慣や健康な身体づくり、基礎体力づくりの仕方を学びましたか。	440	481	93	17	
16	学習や部活動の施設・設備は充実していると思いますか。	425	407	157	42	
17	関一祭において、生徒会や各委員会は活躍していたと思いますか。	632	330	53	16	
18	宿泊行事や校外学習など、校外での活動、学習は充実していると思いますか。	336	381	221	93	
19	狂言・文楽鑑賞会は、古典芸能に触れるいい機会だったと思いますか。	476	399	109	47	
20	勉強や学校生活について、先生に質問や相談ができる雰囲気でしたか。	379	490	137	25	
21	先生の指導方法は、人権に配慮したものであると感じますか。	446	446	103	36	
22	高大の教育連携があると思いますか。	468	441	102	20	
23	進路に関する情報は、提供されていると思いますか。	563	387	69	12	
24	悩みが生じたときに、担任をはじめとする教員、学校カウンセラーに相談ができる体制ができていますか。	355	507	137	32	
25	工夫された授業や、おもしろい実験などが取り入れられていると思いますか。	269	427	254	81	
26	食堂は、利用しやすいですか。	531	349	120	31	

## 2022年度 学校評価 集計結果表

## 関西大学第一中学校

## 集計対象

## 生徒

有効回答数

650

No	設問文	回答数				満足度グラフ
		4. あてはまる	3. ややあてはまる	2. あまりあてはまらない	1. あてはまらない	
1	学校生活は楽しいと感じていますか。	390	218	31	11	
2	この学校に入学してよかったですか。	353	244	45	8	
3	本校での学校生活は、入学前に描いたイメージ通りでしたか。	147	332	134	37	
4	本校の教育方針を理解していますか。	205	342	80	23	
5	事故、事件、災害が発生したとき、どのように行動すれば良いのか、指示を受けていますか。	288	294	63	15	
6	災害や事件・事故などにより帰宅困難になったとき、安全確認のための手段が講じられていますか。	298	281	56	15	
7	校内での新型コロナウイルス感染拡大防止策は、適切に行われていると思いますか。	252	305	72	21	
8	授業を通じ、自分の学力は向上していると感じていますか。	187	356	90	17	
9	iPadなどの電子機器は授業の内容を理解するのに役立っていると思いますか。	408	182	37	23	
10	成績が低迷した場合、補習授業で適切なフォローをしてもらえる仕組みがあると感じていますか。	293	257	79	21	
11	自分の学習状況を保護者も把握していると思いますか。	325	229	78	18	
12	生徒としてのマナーやモラル向上のための指導によって、規範意識が昨年より高まったと思いますか。	240	320	68	22	
13	いじめを許さない指導が日常的に行われていると思いますか。	308	250	62	30	
14	情報機器の正しい使い方に関する指導によって、規範意識が高まったと思いますか。	301	281	56	12	
15	基本的な生活習慣や健康な身体づくり、基礎体力づくりの仕方を学びましたか。	329	278	35	8	
16	学習や部活動の施設・設備は充実していると思いますか。	348	232	58	12	
17	球技大会、体育大会において、生徒会や各委員会は活躍していたと思いますか。	449	177	17	7	
18	宿泊行事や校外学習など、校外での活動、学習は充実していると思いますか。	479	151	15	5	
19	芸術鑑賞会の内容は、満足のもの了吗。	402	194	40	14	
20	勉強や学校生活について、先生に質問や相談ができる雰囲気でしたか。	204	294	122	30	
21	先生の指導方法は、人権に配慮したものであると感じますか。	272	272	73	33	
22	中大、中高の学校同士の教育連携があると思いますか。	205	300	116	29	
23	進路に関する情報は、提供されていると思いますか。	232	283	103	32	
24	悩みが生じたときに、担任をはじめとする教員、学校カウンセラーに相談ができる体制ができていますか。	212	298	102	38	
25	工夫された授業や、おもしろい実験などが取り入れられていると思いますか。	300	274	58	18	
26	食堂は、利用しやすいですか。	269	202	134	45	